

実践活動Ⅳ

(活動計画づくり)

日時：平成24年11月11日（日） 10:00～15:00

講師：丹羽 健司（矢作川水系森林ボランティア協議会代表）

概況



○今回は市民活動コースのまとめとして、受講生が森や地域を活かしていく 活動のシミュレーション(計画づくり)をすることとした。そして、「私たちの暮らしの在り方を考えていく」という視点で森の活用について検討した。

○講師である寺田氏より自分達の活動の紹介があった。その内容は、美濃市で美濃市材を使うために以下のことを考え、仕組みを作ったというもの。美濃市で生まれた赤ちゃんに、身近な美濃市材に親しんでもらうため、その材でつくった積み木をプレゼントするという取り組み。又、一般向けに、その積み木を売る仕組みと価格について現在検討中。

○大学の受講生は、①「森をつくる」という立場と②「木を使うことに親しむ」という立場のグループに分かれグループ検討し、その結果をまとめた。検討に先立ち、先生より以下の助言があった。

- 「森をつくる」立場では、丹羽先生の活動「森の健康診断」や「木の駅の仕組みづくり」が例として挙げられた。
- 「木を使うことに親しむ」立場では、木工、薪ストーブの使用や家を 建てるなど身近な例を挙げられた。

発表 :話し合いの結果、以下の意見が各グループより出た。

①「森をつくる」立場:

- 森づくりに人を呼ぶ。
- 間伐材できのこづくり等をする。また、そのきのこを食べる。
- たき火の魅力を伝える等。

②「木を使うことに親しむ」立場:

- 薪ストーブ用の薪をつくる。
- 薪を作りたい山の山主さんと使用許可の話をつけ、無償で木を伐り、もらう仕組みをつくる(例:森の健康診断)。